

葦年 (yoshi)

市川市立第七中学校 学校だより
No.6 令和6年11月6日

学校教育目標

「豊かな心を培い、たくましく生き抜く力を育てる」
～ 穏やかな教育環境から ～



不易（読書）と流行（タブレット）



「教育における不易と流行」という言葉は教職員の中では言い尽くされた感がありますが、今こそ、目の前の事に振り回されることなく、『不易と流行』をもう一度考える時ではないかと思えます。中央教育審議会答申（二十一世紀を展望した我が国の教育の在り方について）によれば、不易とは「どんなに社会が変化しようとも、時代を超えて変わらない価値のあるもの」であり、流行とは「社会の変化に関心をもち、時代の変化とともに 変えていく必要があるもの」と示しています。このような時代だからこそ目の前の事象に踊らされるのではなく、不易の教育を進めていく必要があります。現在の日本では地域社会のつながりは希薄化し、物の豊かさの中で心の豊かさが失われ、多くの人々が満たされない思いを抱えているように感じます。また昨今の物価の急騰や格差の拡大も教育界には暗い影を残します。そうした変化の中で、日本の子どもたちは、他者への依存心が強くなり、自分に自信がもてなくなってきました。これからの社会を生きていく生徒たちにとって、周囲の情報を正しく選択して自分の考えを確かにもつ能力とともに、人とのコミュニケーションによって様々な価値観を獲得し、取捨選択していく能力は、不確かな未来を生きる子どもたちにとって必要な能力です。特に、コミュニケーション能力は、生きる力を身につけるツールとなります。時代に必要な能力はこれまでは皆がこうだったから従うという受け身の姿勢ではなく、なぜ今までこうだったのかと自分で考える力です。自分で考えたから好き勝手にできるものでなくその決断には責任が伴います。仲間と話し合い議論しながら時間をかけて粘り強く取り組む姿勢は自分自身の成長につながります。

秋も深まり、文化の秋・実りの秋・読書の秋です。『読書』は読解力はもちろん書く力、聞く力などの言語能力が身に付きます。さらに『タブレット』を活用していけば表現力、コミュニケーション能力を身に付けることができます。この2つの「本」「タブレット」はすべての七中生の身近にあります。



市川文化会館にて潮風祭

10月17日に潮風祭（合唱祭）が開催されました。全校合唱ができる市川市文化会館での潮風祭は合唱を通してクラス・学年がそして全校生徒、教職員が思いを共有できる場となりました。



どのクラスも素晴らしい歌声でした



吹奏楽部演奏

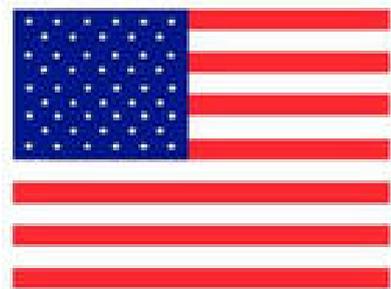


全校合唱

アメリカ・ガーデナ市公式代表団来校

今年で市川市は市制90周年です。11月3日(日)には市川市文化会館にて記念式典も行われ、市川市と姉妹都市にあるガーデナ市のターシャ・セルダ市長さんはじめガーデナ市公式代表団の皆様が市川市を訪問しています。その受入れの日程の中で1日(金)、本校に視察にいらっしゃいました。

当日は午後3時頃に本校を5名のガーデナ市公式代表団の皆様が訪問してくださり、校長室で本校の概要の説明の後、図書館の見学や吹奏楽部をはじめとする部活動の様子をご視察いただきました。前回の生徒会選挙で新たに選出された生徒会本部役員の2年生に校内視察の案内を一緒にしてもらい、姉妹都市の公式代表の皆様を迎えるホスト役として活躍してくれました。



生徒会役員による図書室案内・吹奏楽部の演奏

文責 校長



※HPにはタイムリーな学校の様子等がアップされています。
緊急時の連絡をお伝えすることもあります。HPの登録をお願いします。